

# 潮来市の誇れる文化 第145回

## 小川芋銭の見た潮来

小川芋銭は、明治から昭和初期に活躍した画家です。農村風景を愛し、カッパの絵を多く描いたことから「カッパの芋銭」と親しまれ、素朴でユーモアのある作品や幻想に溢れる多くの作品を残しました。芋銭は、初めの頃は雑誌や新聞に挿絵や漫画を発表しましたが、明治二十九年には、一家が農業で生計を立てるために、茨城県牛久沼畔に居を移します。そして、水郷地帯の神秘的な伝承や自然現象から靈感を得た幻想的な雰囲気のある作品や、当地の自然に対する共感溢れる水墨画を数多く描きました。

昭和八年に描かれた「水郷十二橋」も、芋銭にとつて親しい存在であった潮来の水郷風景を主題とする水墨画です。画面中央の水面には、一頭の牛と農夫、船頭を乗せた小舟がゆったりと進み、その周囲を豊かな樹叢（じゅそう）や水田の広がる自然がやさしく包みこんでいます。

図上には、水郷の名勝であった十二橋に寄せる、画家自身の題讃が気負いのない柔らかな筆致で記されています。

潮来十二橋は  
風流の名に  
伝わりて今に久し  
今断橋となり  
たるものを除けば  
十橋なり  
昔時 十三橋の  
ときもありしとぞ  
いたわられたる  
美妓阿那女  
のおもかげを  
真菰かかれ  
の花あやめ  
にしのび  
鶏の浮巢  
に興がる  
舟遊びも  
早夏の  
五月の  
好時節こそ  
好時節こそ  
（二部表記変更）



小川芋銭「水郷十二橋」  
（三重県立美術館所蔵）

（参考）三重県立美術館蔵「水郷十二橋」解説  
潮来市文化財保護審議会 委員 石津藤好

# 潮来市の誇れる自然 第86回

## 今年も公開実習「巨大湖の生態系と環境問題」が大盛況！

北浦のそば（潮来市大生）にある茨城大水圏環境フィールドステーションは、全国の大学生が湖の生態系や環境問題について学べる教育拠点として文部科学省から認定されています。例年、夏休みに開講する公開実習5コースには、各地の大学生たちが湖でのフィールドワーク目当てで来てくれます。

8月20日～24日の公開実習1「巨大湖の生態系と環境問題―霞ヶ浦での調査・実験から理解する」には、秋田大、北里大、東京海洋大、東洋大、帝京科学大、総合研究大学院大学、九州大の学生たち12名が参加しました。この実習の教材は霞ヶ浦・北浦の水環境、生きもの、生態系、地形・地質などです。

1日目は霞ヶ浦・北浦の水環境問題やその歴史の変遷、最近の外来種問題などを座学で学んだから、アメリカナマズの駆除釣りを実施。1時間足らずで15尾も釣れて（写真1）、その脅



（写真1）釣獲された  
アメリカナマズ



（写真2）北浦沖での船上調査



（写真3）北浦の岸近くでの調査

茨城大学地球・地域環境共創機構  
水圏環境フィールドステーション  
加納光樹・金子誠也

威を体感しました。2日目は北浦沖での水質・プランクトン・底生動物調査のほか（写真2）、室内で活性汚泥を使った水質浄化実験も行いました。3日目は岸近くでの魚類調査（写真3）で、外来種ブルーギルや絶滅危惧種フルメサヨリなど魚介類12種の生息を確認してから、外来魚と在来魚の食う・食われるの関係性を調べました。4日目は湖底堆積物の分析から環境の変遷について理解を深めました。5日目の成果発表会では、学生たちから湖の環境・生態系の保全や持続可能な利用についてさまざまな提案がなされ、ディスカッションも盛り上がりしました。大学生たちが水郷の自然の魅力に触れるよい機会となりました。ご協力いただいた地域の皆様に感謝申し上げます。